

地域情報

(一社) 熊本県野菜振興協会玉名支部

環境制御技術の習得に意欲的！講演会の開催

1月31日に「第2回 環境制御技術に係る講演会」を開催し、管内トマト、ミニトマト生産者及び県内JA指導員、関係機関等約70名が参加し、生育診断に基づいた栽培管理の手法について学びました。

玉名地域では、トマト、ミニトマトを中心に環境制御技術への関心の高まりとともに、環境測定装置や、光合成促進装置(炭酸ガス施用)の導入が進み、日射が少ない冬場でも光合成を促進し、草勢の維持や収量向上に多くの生産者が取り組み始めています。

一方で、測定結果をどのように栽培に反映させるかといった、制御の面については手探りの状況です。

そこで、7月に環境制御技術の基礎について講演いただいた、全農生産資材課 吉田征司主管を講師に迎え、今回は環境制御技術の具体的な方法について講演を行っていただきました。

講演会では、現地での栽培を例に、草勢や栄養・生殖成長のバランスの判断方法や、理想状態に近づけるために温度、かん水、管理作業等でコントロールすることができるという説明があり生産者は聞き入っていました。

7月の講演で、冬場に花房裏の葉を摘葉すると採光性が向上し、果実品質が良くなるとともに、通風性も良くなることで病気の抑制にもつながるといった管理技術の紹介がありましたが、実践している生産者も多く、今後もこのような講演会等を定期的で開催し、生産者と指導機関が一体となって環境制御の技術力向上を図っていきたいと思います。



現地検討会で生育診断方法の確認を行う様子



講演会の様子